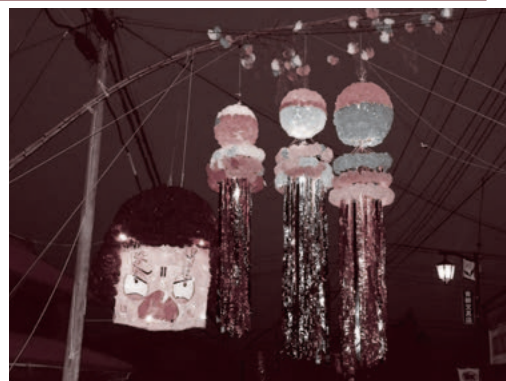


2019 常陸大宮市のお祭り

7/26-27 夏祭り（祇園祭）



8/3 第67回長倉七夕まつり



8/10 第31回美和ふるさと祭り



8/24 第36回あゆの里まつり



8/14 第45回御前山納涼花火大会



8/24 第14回あきない祭



7月 小瀬高生が地域に恩返し

県立小瀬高校の生徒延べ45人が明峰中学校、美和小学校、緒川小学校、御前山小学校を訪問し、夏休み中に行われた「学びの広場サポートプラン〜指導補助〜」に協力しました。これは、高校での学びを生かし、地域の力になることを目的としています。小中学生からは「間違えた問題を分かりやすく教えてくれたので嬉しかった」「分からないことを丁寧に教えてくれとても嬉しかった」との声が聞かれ、参加した高校生は「最初は緊張したけど役に立ててよかった。やり甲斐を感じられた」と感想を述べていました。



▲児童たちに分かりやすく説明しました

8/10 ティーボール

市子ども会育成連絡協議会球技大会が、緒川運動公園多目的グラウンドで開催されました。

支部ごとに選出された12チーム、201人の小学生が4コートに分かれ予選を行い、勝ち上がった4チームで準決勝、決勝を戦いました。

優勝 高部表子ども会（美和小支部）
準優勝 緒川子ども会（緒川小支部）
第3位 山二子ども会（山方小支部）
第4位 ひまわり子ども会（大宮北小支部）



▲優勝した高部表子ども会の皆さん

7/25-26

農家民泊体験

緒川地域と山方地域の盛金地区などで、一般家庭に宿泊しながら農作業をしたり自然と触れ合ったり、さまざまな体験学習を取り入れた民泊事業が行われました。

今年民泊体験をしたのは、東京都江戸川区立葛西中学校の2年生76人。野菜の収穫などの農作業、地元食材を活かした料理づくりや昔の遊びなどを体験しました。



▲入村式の様子

＜農家民泊とは＞

林間学校などを通じて、都市部の小中学生が山間部の農家など、豊かな自然の中にある普通の家庭で宿泊することです。近年、体験学習としての位置付けが増え、教育的配慮から「ホンモノ」を提供しながら民泊も行う「宿泊型農林漁業体験」への関心が高まっています。

民泊から得られる子供たちへの効果として、食料生産の役割や高齢者の知恵や技術を学んだりする良い機会となっています。

また、地域にもたらされる効果として、子供たちとの活動から地域に活気が生まれたり、体験料などの経済効果もあります。

■問い合わせ■ 地域創生部 地域創生課
☎ 52-1111 (内線384)

7/26-28

大館市城南小学校の児童が来市

平成27年度に友好都市協定を締結した秋田県大館市の城南小学校6年生12人が大宮小学校へ来校し、小学生同士の交流活動を行いました。

部垂城址・小場城址の見学のなかでお互いの歴史を学び、西の内紙の紙すき体験では、本市の伝統に接しました。

また、祇園祭の見学に行き、市の地域に根付く文化を垣間見ることができる充実した交流が図れました。



▲両校の児童で記念撮影

この交流事業は、地域を越えた児童相互のふれあいや出会いの機会を設け、地域・特色の違いに触れることにより多角的な視点を育むとともに、郷土への愛着心の醸成を図り、豊かな人材を育成することを目的として実施しています。

今回の事業に参加した大宮小学校児童は、本市から遠く離れた人たちとの交流や市の文化の体験などを通して、ふるさとの魅力を再認識することができました。



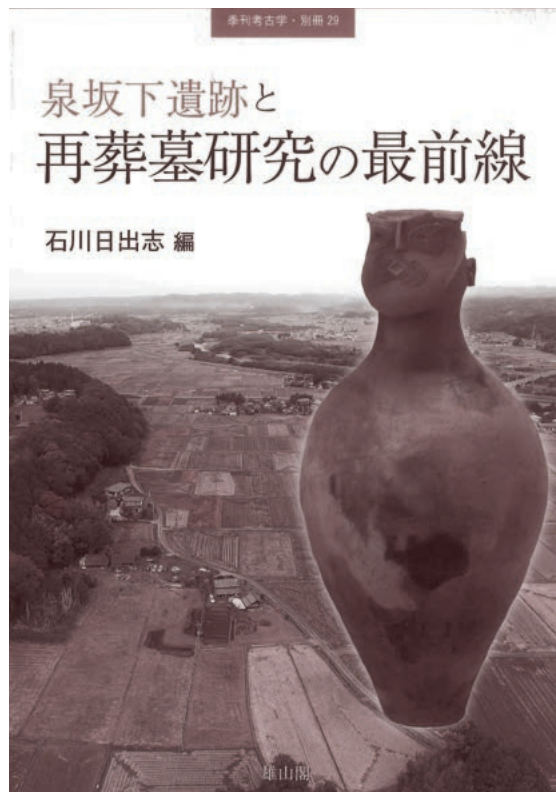
▲城南小学校児童の大館市紹介

泉坂下遺跡シンポジウムの記録が刊行されました

平成29年、泉地区にある弥生時代の再葬墓遺跡「泉坂下遺跡」が国史跡に、その出土遺物が国重要文化財にダブルで指定されました。本市として国の文化財指定を受けるのは初めてのことであり、本市の文化財が国レベルで評価されたことは大変喜ばしいことでした。そこで、教育委員会ではこれを記念し、第一線の研究者を招いてシンポジウムを開催しました。

今回、その記録が一部改編の上、株式会社雄山閣から『季刊考古学・別冊』シリーズの一巻（特集「泉坂下遺跡と再葬墓研究の最前線」）として刊行されました。このシリーズは全国販売されていて、全国の研究者・歴史愛好家が手に取る刊行物です。泉坂下遺跡は、書籍の形でも全国に知れ渡ることになります。内容は再葬墓に関する研究の最先端を示していますが、分かりやすい文章で書かれています。

この本は書店でも買えますが、歴史民俗資料館大宮館で、割引価格（定価税込み2,808円を2,200円）で販売中です。興味のある方は、数に限りがありますので、お早めにお求めください。



▲表紙写真

8/17-18

東京2020オリンピック開催まであと1年 茨城にもオリンピックがやってくる！

東京2020オリンピック競技大会1年前イベント（主催：茨城県・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会茨城県推進会議）が、道の駅常陸大宮～かわプラザ～で開催されました。

パラオのホストタウンである本市では、パラオを紹介する写真やペリリュー島の戦いに関する資料のほか、ホストタウン交流事業などの展示を行いました。



▲最後の1枚を貼る子供たち

来場者からは、「74年以上も前から、日本とパラオには深い関わりがあることを展示を見て初めて知った」などの声がありました。

また、東京2020大会出場を目指すパラオ選手への応援メッセージを、150人を超える来場者の皆さんに書いていただきました。完成したメッセージボードはパラオ選手団の事前キャンプ時に練習施設などに展示する予定です。



▲完成したメッセージボード

8/3

常陸大宮市史セミナー シリーズ講座その2

市文化センターで、「常陸大宮市史セミナー シリーズ講座その2」を実施しました。これは、市史編さん事業の調査内容を市民の皆さんに紹介することを目的とし、全3回の講座を通して、常陸大宮の先史時代に迫るテーマとなっています。

今回は、考古部会の橋本勝雄調査員を講師に招き、「最古のハイテク（石器製作）と旧石器人のライフスタイル」という題目で講演をいただきました。



▲熱心に受講されていました

講演では、石器の作り方を紹介したほか、市域の遺跡から出土する石器を分析することで、旧石器時代の人々が頻繁に移動を繰り返しながら生活していたことや、市域が石材原産地であり、南関東へ石材を供給する要所となっていたことを明らかにしました。

講座には、市内外から約50人の来場者が集まりました。次回は縄文時代に関する講座を予定しています。



▲展示された石器にも関心が集まりました

8/24 ひたまる先生ワークショップ

ひたまる先生会ワークショップが、おおみやコミュニティセンターで開催されました。今年は「健康」という大きなテーマを掲げ、食・スポーツ・心の講座を実施します。2回目となる今回はスポーツをテーマとして「スポーツ体験講座」を、ひたまる先生の河野八重子さん、木村勉さん、石崎三枝子さんを講師に迎え開催しました。

「茨城ゆめ国体」のデモンストレーション競技種目のスポーツ吹矢・ユニカールのほか、ニュースポーツのラダーゲッター・オーバルボールなど、普段体験できない競技をひたまる先生指導のもと、楽しく体験することができました。第3回を2月頃開催予定ですので興味のある方はぜひご参加ください。



▲楽しそうですね

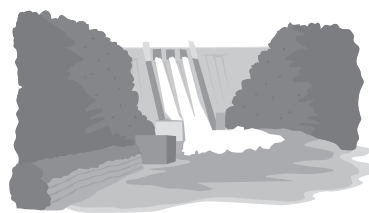
ひたまる先生を紹介します vol.23



▲青山民雄さん

御前山ダム環境センターの青山民雄です。御前山ダム環境センターでは、御前山ビオトープをはじめとした御前山ダムの環境対策や小・中学生に対する自然観察会、農業体験学習の実施など、地域のコミュニティづくりに積極的に取り組んでいます。私達は、地域の自然、環境を守る野外活動を通じて、多くの人が交流し、自然と共存するまちづくり・地域活性化に寄与していきたいと考えています。現在、ダム周辺へのヤマザクラ・エノキ（榎）の植栽や遊歩道整備など、御前山ダムの観光資源化に向けた活動を進めていますので、多くの皆様の御協力をお願いします。

■問い合わせ■ 090-5818-5172



地域おこし協力隊がゆく



▲森の中で活動中！

地域活性化担当の松原功です。

前回お話しした「人々が森林と触れ合う機会を提供すること」の一環として、森林ふれあい体験会を実施しました。5月から8月にかけて行ったのは、皮むき間伐体験とウッドコースターづくり体験です。「皮むき間伐」とは、夏場に杉や檜の樹皮をはぎ、ゆっくり枯らす間伐手法です。「間伐」とついていると作業感が出てくるので、森林でできる新たなアクティビティとして企画しました。参加してくださった皆さんは、皮むき間伐を初めて体験する方ばかりでしたが、一様に楽しんでいただくことができたのではないかと思います。

今回は私自身が企画を考え、実行する過程を体験しました。苦労することが全くないわけではありませんでしたが、それ以上に好奇心がくすぐられることもあり、非常に良い経験ができました。

また、多くの方の大きなサポートもあって、体験会を行うことができました。サポートしてくださった方々に改めて感謝申し上げます。

森林は無限の可能性を秘めています。森林は常陸大宮市にもたくさんあり、身近な存在だと感じています。しかし意外と知らないことも多いはず。私もまだ分からないことだらけですが、森林と人の関係性をより深めていけるような取り組みを今後展開できるよう努めていきます。